

# 「沖縄地域」における地域資料の記録からの教材開発【1】

— デジタル・アーカイブ手法における沖縄の文化「衣」の教材化 —

Teaching materials development from the record of the local document in "the Okinawa area"

玉村綾\*<sup>1</sup> / 久世均\*<sup>2</sup> / 齋藤陽子\*<sup>3</sup>

平成18年に改正された教育基本法では、新しく「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」と明記された。このような教育基本法の改正という社会的背景をもとに、伝統・文化について新しい教育課題として受けとめ、伝統文化に関する教材の整備をすべきである。

そこで、本研究では、沖縄地域の伝統・文化にとして、琉球時代から長い歴史を通じて培われ受け継がれてきた、沖縄の「衣」に着目し、沖縄独自の布の文化や材料、使われ方などを調べ、自分が生まれ育ってきた地域の歴史、伝統を大切にし、情操豊かな行動ができる人間として教育するための教材をいかに開発すべきかを考察し、試行・実践を進めたい。また、本研究では沖縄の「衣」の中でも代表的な芭蕉布を取り上げ、材料や製作過程、歴史などを子ども自ら学ぶことができる教材の整備を進めた。

<キーワード>

デジタル・アーカイブ, 地域資料, 伝統文化, 沖縄文化, 芭蕉布

## 1. はじめに

あらゆる文化の基礎は、地域の伝統・文化にあり、われわれはこれらの伝統の先端にあって、その伝統・文化を同時代性をもって創造していくことが、文化の創造であると考えている。来るべき「成熟した時代」の日本文化を支えるものがこの伝統・文化であるが、今日適切な手が打たれぬまま、それらが失われようとしている。伝統・文化は、歴史のなかで常に同時代性ある文化として現在まで継承されてきた。それはそれぞれの地域の発展と成長とともにその形を創造的に変え、今日に継承されてきている。今回取り上げた沖縄地域文化も同様に、沖縄という地域の発展と共に創造的に変化しながら今日に継承されてきた伝統・文化である。

従って、この研究は「沖縄」の歴史的な文化遺産をデジタル・アーカイブしたのではなく、『伝統の先端にいる現在において生活している人が創造している文化』をデジタル・アーカイブしたものであり、地域における地域文

化の伝承をみたものである。そしてこのような地域文化こそが、伝承されていくべきものではないかと考える。

しかし、地域の伝統・文化を伝承するためには、伝統・文化は地域や生活と密着した文化であるが故に、単なる資金助成だけでは伝統・文化には必ずしも良い効果を生むとは限らない。

伝統・文化における創造と発展、これがそれぞれの地域の個性ある文化の創造であり、地域の創造、活性化の源である。全国のなかでも比較的伝統・文化が豊かに継承されている沖縄地域の地域文化が、それらを同時代性ある活動として活性化していくことで、多様で豊かな社会を創りあげることが重要である。

また、本学がそのような地域社会を形成していく活動に対して、適切な形で協働していけるとすれば、それは非常に大きな意義を持つものである。

また、このことが沖縄の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承してい

くべき文化や地域資源を地域として再評価するとともに、受け継ぐべき文化や地域資源の発展的継承方法や活用方法を検討し、地域の活性化につなげることができると考える。

## 2. 地域文化情報と学習指導要領

歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。

このように「伝統・文化」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、伝統・文化を持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

地域の伝統・文化による地域づくりを進めるには、まず、地域住民に地域の伝統・文化を周知し、共通認識として確立することが必要である。また、住民の行動範囲が拡大し自らが情報収集できる時代にあって、インターネットなど多様な情報媒体による多種多様な情報が錯綜している中、住民の関心・興味を引き出すような情報発信能力を向上することが重要である。さらに、地域の伝統・文化は、幼少の頃から、お年寄りまで多くの世代で共有することが重要であるため、その世代に応じたコンテンツも用意することが望まれる。

また、地域の伝統・文化による地域づくりを実践するためには、取り組み主体から情報を発信するだけでなく、今後の展開を検討する上では地域住民の意見や他地域の情報を収集することが不可欠である。

一方、新学習指導要領では、伝統・文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国の国際社会の平和と発展に寄与することのできる児童生徒の育成のために内容の充実を行ったとされている。このようなことから、小学校における伝統・文化の教育が必要であることが明らかである。今回、地域の伝統・文化を教えていく教科として、「社会科」と「総合的な学

習の時間」に着目した。学習指導要領小学校社会科の目標では次のようである。

このように、今回の学習指導要領の改訂で

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

は、小学校「社会科」においては、「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て」と教科目標の中に、これまでの日本を理解していくことが挙げられている。その中で、日本特有の伝統・文化を受け継ぎ新しい文化を築き上げ、より良い社会にしていくことを重視していると考えられる。また、小学校4年生「総合的な学習の時間」において「沖縄には昔から続いている産業があり、それを受け継いでいこうとする人びとがいることに気づき、沖縄の文化に対する誇りと愛情を育てる。」ことを目的とした。

そこで、社会科での本教材の活用と総合的な時間での活用方法について例で示す。

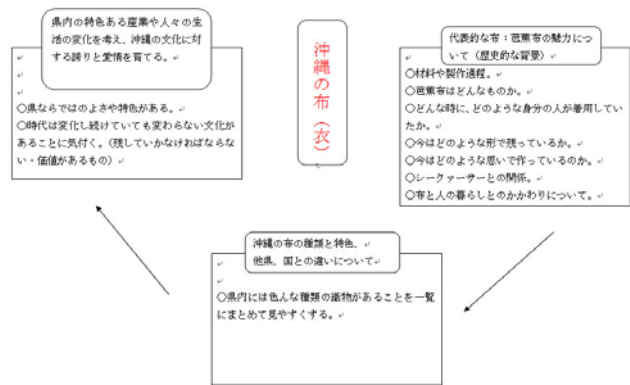


図1 社会科4年生での活用事例

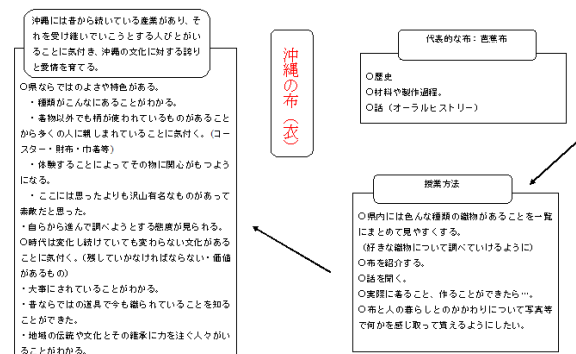


図2 総合的な学習の時間での活用事例

### 3. 沖縄の文化「衣」の教材の構成

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する住民にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ触媒として地域に輝きをもたらす。ここでは特に、沖縄の文化「衣」の教材開発を「芭蕉布」を中心に次のような構成で行った。

**①沖縄の布**

- ・どのような布が沖縄にあるか
- ・どこで、どのように作られるか

○沖縄の独自の布は沖縄本島や離島の様々な場所にある。  
⇒いろいろな布の撮影を行う。

○それぞれ、小学校3・4年生の視点での分野や利用について

**②布の歴史的な背景**

- ・特に「芭蕉布」について
- ・昔話として、地域の人に聞く。
- ・資料の提示

○芭蕉布は沖縄の布の中では最も古いものであることを話として聞く。

○どのような身分の人々が着用していたか。(文字資料)

○布と人のくらしとのかかわりについて。(文字資料)

**③人の話**

- ・おじい、おばあの話

○沖縄の布の全体的な話（どのような種類があり、それぞれの特色はどのようなものなのか。）

○芭蕉布の話（芭蕉布の特色、その作り方、その歴史）

**④関連資料**

○昔はどのように使われていたのか、小学校ではどのように使われていたのか、など。

また、沖縄の文化「衣」の教材の構成については、図3のように構成した。

### 4. 沖縄の文化「布」の素材調査票

この教材の構成を基に、沖縄の文化「布」

について、各基本情報(メタ情報)をまとめることが必要となる。

そのために、沖縄の文化「衣」の基本情報を記入する基本情報シートを図4のように作成し、静止画や動画情報とともに記録、管理することにした。

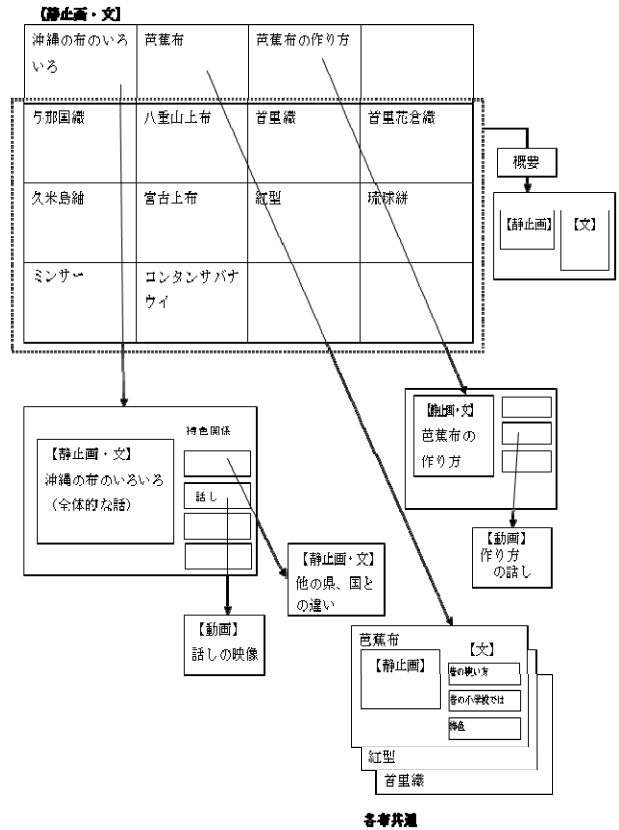


図3 教材の構成

素材調査票 (例)

調査項目	沖縄織物 ～与那国織～
位置情報	日本測地系： 緯度 24.464082724878533 経度 123.0058127313712 世界測地系：緯度 24.4682157 経度 123.0045116
調査内容	(①②は小学校3・4年生が分かる言葉で表記。③は教師が参考にすることを想定。)

<p><b>①歴史</b> (作られた時代、これまでの歩みなど)</p>	<p>与那国島は日本の一番西側にある島。この島に生まれた織物の歴史はとても古く、おおよそ500年の歴史があると考えられている。16世紀後半には既に貢ぎ物として納められていたと考えられている。 500年の歴史を持つ与那国織は、昔は役人のみ着用することが許されていた。その織物は『与那国花織』という。</p>
<p><b>②特徴</b> (地域の人々がどのように捉えているか、かわりを持っているかについて、わかる範囲で。)</p>	<p>与那国織にも種類があり、与那国花織、与那国ドゥタティ、与那国シダディ、与那国カガンヌブーの4つに分けられる。 与那国花織は幾何学的に表現されている花織で、柄によってダチン花(八つ花)、イチチン花(五つ花)、ドゥチン花(四つ花)と呼ばれている。 直線的な構図の中にも伸びやかで広がりがあり、格子縞の織り合わさった色合いがより布に深みを与え美しい花々が元気に咲き誇っているように感じとられる。どこか優しさの感じられる織物である。</p>
<p><b>③関連資料</b> (本やWeb、報告書など。本や報告者はそのページ)</p>	<p><a href="http://www.yonaguniori.org/">http://www.yonaguniori.org/</a> ~ 与那国町伝統織物協同組合~ <a href="http://www.dentoukougei.org/modules/blog/archives/296">http://www.dentoukougei.org/modules/blog/archives/296</a> ~伝統工芸》沖縄の伝統工芸：与那国織~ ~与那国 クネヒト API~</p>

図4 素材調査票(例)

## 5. 沖縄の文化「芭蕉布」の収集

### (1) 素材のデジタル・アーカイブ

芭蕉布は、沖縄を代表する織物の一つ。芭蕉には実芭蕉(バナナ)、花芭蕉、糸芭蕉があり芭蕉布には糸芭蕉が使われる。現在は大宜味村の喜如嘉にその伝統が受け継がれている。芭蕉布は麻より繊維が堅いため軽く張りがあり風通しが非常に良く、さらりとした肌触りが特徴。亜熱帯気候の沖縄に最適な織物として、王族から農民にいたるまで夏の衣類とし

て広く愛用されていた。13世紀ごろからすでに芭蕉布は織られており、大交易時代や薩摩侵入後は、献上品や貢納品として大きな役割を果たしてきた。

そこで、今回の教材開発のために大宜味村の喜如嘉芭蕉布事業協同組合に行き取材を行った。これらの取材から素材調査票を完成するとともに、これらの静止画や動画をデジタル・アーカイブ・収集した。



図5 芭蕉布の原料



図6 芭蕉布を織っている様子



図7 芭蕉布の製品

### (2) オーラル・ヒストリーの撮影

今回の「芭蕉布」の取材におけるデジタル・アーカイブにおいて大切なことは、なるべく高品位な映像で保存することである。特に、

ハイビジョン撮影におけるオーラル・ヒストリー作成における留意事項は次のような点である。

#### (a) オーラル・ヒストリーの形態

オーラル・ヒストリーは対象の捉え方から大きく3つに分けることができる。

第1にライフヒストリーと呼ばれる形態がある。これは対象者の人生全般について聞き取りをする形態であり、社会学の方法として用いられてきた。

第2に、特定のテーマを絞って行うテーマオーラルがある。

第3に、テーマオーラルを発展させた形態として組織オーラルがある。これは一つの組織について網羅的に話を聞いていくことで、組織の全体像、組織の記憶を残し、体系的に把握することを可能にするものである。

今回の「芭蕉布」事業協同組合の理事長のオーラル・ヒストリーは、「芭蕉布」というテーマに沿って聞き取りをした。そのために、限られた時間の中でも複数の関係者に話を聞くことが可能となり、クロスチェックと情報の複層化が可能である。

#### (b) 対象へのアプローチ

分析事項が決まれば、次は聞き取り対象者の選定、アプローチを行うこととなる。テーマオーラルのように課題が先にある場合にはとりわけ聞き取り対象者の選定が重要となる。今回は、先に「芭蕉布」をアーカイブし、その歴史的な意義や制作過程の基本を担当者は熟知していることになる。

今回のテーマオーラルは、「芭蕉布」の伝承が課題であるため、歴史についても織の所作についても十分熟知している芭蕉布事業協同組合の理事長にお願いした。また、今回のオーラル・ヒストリーを作成するにあたって、何度も事前に顔合わせを行っておいた。このことは、先方からある程度の事前情報（履歴など）を得ておくこと、先方の様子を把握して聞き方を考えることなど、聞き取りを充実したものとするための準備の意味合いがある。

#### (c) 資料、質問表の作成

次に、聞き取り実施に用いる資料と質問表の作成が課題となる。「芭蕉布」では、事前に「芭蕉布」作成過程を動画で撮影しており、同じ場所で、インタビュー形式でオーラル・ヒストリーを作成した。このことは、いずれも

記憶の引き出しとして、話の流れを構成する軸となるものである。

#### (d) インタビューの実施

実施の段階になると、聞き手をどうするか問題となる。聞き手の人数は、通常、少人数で行うのがよい。これは、質問、視点に多様性を持たせることと同時に、聞き手の集中力の問題がある。一対一の聞き取りの場合、聞き手はどうしても次の話題、話の振りかたに意識が向き、通常のように相手の話を深く理解するほどの余裕を持ち得ない。こちらの聞きたいことだけではなく、相手の話したいことを聞くことが記憶の覚醒には重要となってくる。そして、聞き手が質問表に書かなかった、予想しなかった事例にこそ、大きな発見が存在していることも多い。

#### (e) 書起こし、修正、追加から公開まで

インタビューが終了すると毎回、録音の書き起こし作業が出てくる。実際のインタビューはそのまま文章化することはほぼ不可能なものであり、これを意味合いを変えず、雰囲気や壊さず再構築するにはかなりの経験を要する。そうして完成した第一次速記録は、聞き手話し手双方に送られ、文章チェック、訂正、修正、加筆、場合によっては削除が入ることとなる。これを受けて第二次速記録が作られることとなる。

いよいよオーラル・ヒストリーが終わると、教材の作成が考えられるが、その場合には図3に示す情報の複層化をすることが重要になる。また、公開にあたっては著作権等の契約、覚書を取り交わす必要がある。



図8 オーラル・ヒストリー撮影の様子

## 6. 地域資料のデータベース

社会科などの教材として学校などで素材の

共有を図るためには、本学で提案している地域資料データベース記録項目を基準としてメタ情報を作成することが重要である。(素材のみでメタ情報がない素材は、利用ができなくなり、最終的には情報のゴミになる。)

地域資料デジタル・アーカイブを行う場合、地域の地図などを利用しての位置情報に関するデータは重要である。また、新しい町づくりが行われたときに、新しい町の区画整理された場合に、地域資料に対しての戸籍を残していくことが大切である。その資料が「どこで」撮影されたか、またはどこに存在しているのか、つまり場所という領域を示している。このように、地域資料を記録するためには、いくつかの領域に従って纏めるべきである。

この視点で、地域資料の記録に必要な領域として、「何を」「どこで」「いつ」「どのような方法で」「だれが」「許可」(を得て撮影記録したか)、を取り上げ、設定した。これら各領域に属する情報を記録することにより、後世への地域の記録の継承、今後の地域教育活動、伝統文化学習、さらに提示資料の開発や共有を行うなど、適切な地域資料の利用に供することができる。

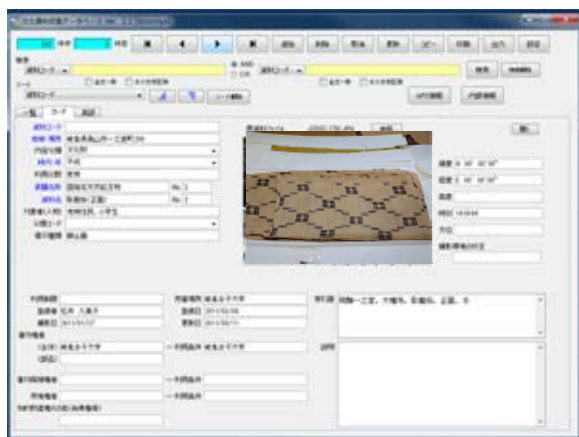


図9 沖縄地域データベース

そこで、地域資料を記録するデータベースの記録項目にあたっては、これらの視点で整備し、次のような記録項目の検討を行い、試案を作成している

#### (a) 「何を」・・・内容

タイトル(表題名称, 提示資料名), 内容分類, キーワード(索引語), 説明など, 資料の内容にかかわる情報があてはまる。

#### (b) 「どこで」・・・場所

地域資料のデジタル・アーカイブにおいて、特に重要であると考え、主として取り上げた位置情報カテゴリにあたる領域である。緯度、経度、高度、方向、地図および地名、施設名などを示す。緯度、経度、標高については GPS のデータを利用するため、GPS のデータを記録する際にその精度と関連して必要とされる、地球上の位置を座標で表す前提条件である[測地系]を項目として追加した。

#### (c) 「いつ」・・・日時

対象となる地域資料の記録の撮影年月日、時刻の項目を示す。必要に応じて GPS のデータを利用する。

#### (d) 「どのような方法」

地域資料の撮影記録の方法や撮影の状況などの記録項目を示す。とくに、位置情報の記録としては、対象となる資料を撮影したデータを「撮影データ」、撮影している状況を撮影したデータを「撮影状況データ」とした。また、それらの位置関係を示す図(地図など)も位置付けた。

その他、周囲の様子を記録した 360° 全方位撮影や多方向映像などを併せて記録するとよい。

#### (e) 「だれが」

撮影に関わる機関名または撮影者、データの登録者などを示

#### (f) 「許可」

著作権、所有権、プライバシーなどの権利をもつ団体、個人などを示し、さらに、利用に関する許諾の有無を示す。

沖縄「衣」データベース

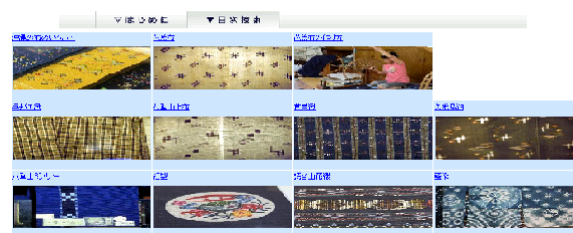


図10 「沖縄の伝統文化衣」教材のTOPページ

## 7. おわりに

現在、情報化・国際化の変化により今まで受け継がれてきた伝統・文化が失われつつある。この失われつつある伝統・文化を継承していく必要がある。そのためには、今後の日本を背負っていく子どもたちが伝統・文化を継承し、子どもたち自

らが伝統・文化を創り出していく心を育む教育が必要となる。伝統・文化について知ることによって、愛着をもつことができ、子どもたちは後世に伝統・文化を継承しようとすると考えた。

今回は沖縄の伝統文化「衣」の教材作成の経緯とデジタル・アーカイブ手法を報告した。

本研究にあたり、研究手法から論文作成まで、1つ1つ細かく指導して下さいました岐阜女子大学の後藤忠彦学長、ならびに齋藤陽子准教授に心より感謝し深くお礼申し上げます。撮影に際し久世均教授、加治工尚子助教、仲本實先生にもあたたかくご指導を頂きまして、深くお礼申し上げます。